

防衛大臣政務官の来訪について

1. 日 時 令和3年(2021年)7月20日(火) 15:15~15:35
2. 来 訪 者 松川るい防衛大臣政務官、防衛省南関東防衛局長ほか
3. 対 応 者 横須賀市長、市長室特命参与、国際交流・基地政策課長
4. 来訪の目的 市長表敬とともに、英空母打撃群の日本への寄港にあたり、同打撃群の一部艦艇が横須賀に寄港することについて説明のため。

5. 面談概要

(1) 松川政務官からの説明要旨

今般の英空母打撃群の日本寄港は、長い歴史と伝統を有する日英防衛協力が「新たな段階」に入ったことを示す象徴であり、「自由で開かれたインド太平洋」の維持・強化のための英国の関与と日英の連携を示すものであると考えている。

政府としては、我が国を取り巻く安全保障環境が格段に速いスピードで厳しさと不確実性を増しているという現実を踏まえれば、英空母打撃群の我が国を含むインド太平洋地域への展開が、この地域の平和と安定を促進し、何より我が国の安全保障に寄与するものであると強く確信しており、今般の寄港の成功に向け、全力で取り組んでいく。

今般の日本寄港に際し、英国海軍の象徴である空母「クイーン・エリザベス」を本年9月、長年、米空母の母港として日本の防衛に大きく貢献いただいている実績のある横須賀(横須賀海軍施設)に寄港させることになり、これらの艦艇の寄港について市長に直接説明するため伺った。

(2) 上地市長の発言要旨

【冒頭】

英空母の寄港場所が米海軍横須賀基地である理由、横須賀に寄港する艦艇の乗組員数と寄港期間、乗組員の上陸の有無と新型コロナウイルス感染症対策について確認。

政務官からの説明を受け、今回の英空母打撃群の横須賀への寄港について、安全保障環境がこれまでにないスピードで変化している中で、地域の平和と安定のためには、同打撃群のインド太平洋への展開は、ある意味必然性があり、日本の安全保障上、重要な位置を占める横須賀への寄港は当然の帰結であると考えている。

また、陽性者が発生した艦艇が横須賀に寄港することについて、市民をはじめ、基地従業員の皆さんが不安に感じることをないよう、日本政府として英国政府と調整のうえ万全の対策をとるよう申し入れる。

今後、英空母打撃群の寄港までの間、引き続き丁寧な調整と情報共有を依頼する。

以上